

み教えをつなぐ

浄土真宗の永代経

三宮 亨信

本文中、『浄土真宗聖典（註釈版）第二版』は『註釈版聖典』と略記しております。

もくじ

永代経とは？……………	4
今、私たちに大切なこと……………	15
こころ豊かに生きる……………	24
お育ての中で……………	33

永代経とは？

「永代経」と聞いて、皆さんはどういったものを想像するでしょうか。

「永代経」とは、「永代読経」の略ですから、「永代にわたって、末永く仏さまのお徳を讃嘆さんたん（ほめ讃えること）するお経が読まれる」ことです。そのためには、一人ひとりがみ教えを大切にしておくことはもちろんですが、み教えの道場であるお寺が末永く存続し、栄えていかなければなりません。そのような願いのもとに、故人をご縁として勤められる法要を「永代経法要」と言い、そのような願いで供えられる懇志こんし（まとまった額の浄財じょうざい、お布施）や仏具（お寺で使うお道具の場合もあります）を「永代経懇志」と言います。

皆さんは、それぞれにかけがえのない大切な方を失っておられるのではないのでしょうか。その亡き方を縁として、一年に一、二度、お寺にお参りして一緒にお経を読み、阿弥陀さまのみ教えを聞かせていただく集いが「永代経法要」なのです。

あるお寺の案内状をいただきました。

永代経法要……それは、今まで亡くなられたすべての人々をご縁として、

今を生きる私たちが、永代にわたって阿弥陀さまのみ教えを聞き取り、受け伝えていくために開かれる、私たちのための法要です

亡き人の呼びかけ

古い詩の一つです。

再会

あの戦争に駆り出されて
父と別れた日が

思い出せない

もう一度会いたいと

思った時

父は すでにいなかった

白骨となった父が

お前は何のために生きるかと

問いかけていた

だが この愚かものが

そのよびかけに

気がつくには